

第5回境港市みんなでまちづくり推進会議録

日時：平成30年3月19日(月) 18:30～20:15

場所：市役所第一会議室

日程

- ・みんなでまちづくり推進会議事業報告書(案)についての協議

出席者(敬称略)

(委員)

植田建造 遠藤恵子 梶川恵美子 門脇紀文 佐古 廣
土田良和 徳尾 勝 松本幸永 門脇京子 渡部敏樹

(事務局)

沼倉加奈子(地域振興課長) 木下泰恵(地域振興課長企画係長)
渡部大樹(地域振興課企画係主事)

欠席者(敬称略)

石橋文夫 佐名木歩実

傍聴者

なし

<開会>

(会長)

皆さん、こんばんは。お疲れのところ、お集まりいただき、ありがとうございます。

本日は、ご案内のとおり、第5期の委員による最後の会議ということになります。欠席されておられる方もいらっしゃいますが、本日来られた皆さまと、第5期の事業報告書の作成に向け、意見を出しあえたらと思います。

では、このあとの進行は事務局に任せたいと思います。

(事務局)

本日は、石橋委員・佐名木委員が欠席となっております。

さて、先日、皆さまへ事業報告書の案を送付させていただきました。本日、お持ちいただいておりますでしょうか。

こちらの事業報告書について、本日皆さまから意見を伺い、校正を加えまして、後日、会長と副会長から市長に対して、事業報告書を提出していただくという流れになっております。また、毎熊アドバイザーにも案を見てもらっておりますが、完成しましたら、事務

局からお渡ししたいと思っております。

それでは、さっそく、見ていきたいと思えます。

まず、目次がありますが、ここにある大項目ごとに皆さんから意見をお出しいただく形にしたいと思えます。まずは、1Pの「はじめに」です。こちらについて、ご意見はありますでしょうか。

※以下、大項目ごとに意見の有無を確認。

(委員)

7Pに「～させる」という言葉がちょっと気になります。若い人に参加してもらうためにどうするかという話なので、「～させる」というのは上から目線な気がします。

(委員)

これはワークショップで出た意見そのままですよ。

(委員)

若者が出した意見かもしれません。

(委員)

変えると逆に問題になるようにも思えます。

(地域振興課長)

委員だけではなく、若者も入れたワークショップでの意見ですので、若者の意見である可能性もあります。まだ余白があるので「意見は原文のまま」という注釈を入れてはどうでしょうか。

(委員)

そのようにお願いします。

(委員)

毎熊アドバイザーは有名な方だと思いますが、何を専門としていて、どういった経歴の方なのかというのが、初めて見た方には分からないと思えます。

(地域振興課長)

1Pに「島根大学法文学部～」と記載しておりますので、そこにプロフィールを載せても良いかもしれません。

(委員)

この報告書は、そもそもどこまで出回るものなのですか？一般の方も見られるのですか？

(地域振興課長)

市長にお渡しした後、市のホームページでも載せますので、一般の方も見るができます。

(委員)

それなら、プロフィールを載せたほうがいいですね。

(委員)

境港市においては、みんなでまちづくり条例の策定段階から関わっていただいています。

(地域振興課長)

それでは、本文の下に毎熊アドバイザーのプロフィールを載せるという形でもよろしいですか？

(委員)

はい。

(事務局)

毎熊アドバイザーの話が出ましたが、アドバイザーからもご意見をいただいております。

「P3の協議結果というところで表を付けており、表の左と右で連動しているような印象を受けるが、実際は連動していないので、そこは左・右でなく、上・下でまとめた方が良いのではないか」とのご意見です。

(委員)

自分たちは当事者だから、連動していないと分かっているけれども、参加していない初めて見る人にとっては連動しているように見えるかもしれません。

(事務局)

では、このように修正します。

(委員)

市民活動推進補助金についてですが、予算いっぱいまで申込みが来ているのでしょうか。

(事務局)

いっぱいまでは来ておりません。

(委員)

活動がもっと活発になれば良いと思います。審査をしても、面白くないという語弊がありますが、せっかくある助成金ですから、もっと多くの団体に使ってほしいと思います。

(委員)

花いっぱい運動も申込み団体が固定化したという印象です。出すほうも、出せばもらえると思っていると思います。まちづくりの面からすると、一度よく考えなければいけません。本当はイベントをすとかして、まちを活性化する方向でやってもらうべきです。中には、総合高校のように、校舎だけではなく、まちに出て花いっぱい運動をしているところもありますが、学校の中だけで活動しているところも多いので、こちらの補助金とは違うところから出せないものかと感じます。

(委員)

花いっぱい運動は、花いっぱい運動だけをずっとやっていて、広がりもないです。

(地域振興課長)

今年は市内7校から申請があり、全校が取り組む形となりました。このほかにも、人権の花運動というものもあり、「学校に花はつきもの」ということになれば、教育委員会での予算化というものも必要になってくるかもしれません。ただ、補助金の予算を使い果たすところまでいっていない現状もありますので、現段階で、花いっぱい運動を別枠にするとというところまでは必要ないかと思えます。

(委員)

決算をしっかりしていただきたいと思えます。

(会長)

毎回、プランターを買っているような印象もあります。

(事務局)

審査の際に、そのご意見をいただいていたので、委員の意見という形でお伝えし、購入数を減らした等の改善を実績報告書で確認しています。

(地域振興課長)

それでは、委員の皆さまから、新規申込の団体が増えることを期待しているという主旨の発言もありましたので、P 1 1の余白に（４）として追加して「事務局は利用促進策を図りたい」というように記載させていただきますでしょうか。

（委員）

はい。

（委員）

なかなか年度内にやるというのが難しいですね。農業関係でしたら、４月から取り掛からないといけませんし。

（地域振興課長）

P 1 1の（３）にありますように、４月からの事業に関しては、３月１日から募集を始めさせていただきます。今年初めてだったので、まだご存じない団体もいるかと思いますが、４月から利用できるということが広まれば、利用する団体も増えるのではないかと期待しているところです。

（会長）

年度初めから始めるためには下ごしらえが必要です。

（委員）

それは、きちんと実施計画を立てておけば良いのです。要は、平成29年度の予算で平成30年度の準備を入れておくのです。どうしても期をまたがる事業はありますが、助成金はできないので、そういう形でやるしかありません。

（事務局）

そういった申請に関わることも相談していただければ、ご相談に乗らせていただきます。

（委員）

P 1 1に「補助事業で作成する印刷物には補助金事業であることを明示」とありますが、印刷物だけですか？

（事務局）

PRを図るものでしたら、すべて明示していただきたいと思います。

（委員）

渡小学校の綿畑のところの看板には補助金であることを入れていますから。それから、

「PR」という言葉でなく、「周知」の方が良いかと思います。「PR」というと商業的な印象もありますので。あと、トットリズムは図柄もありますから、それも考えてみてください。

(委員)

P12にある審議会についてですが、傍聴者というのはどういった方が来ているのでしょうか。

(地域振興課長)

地域振興課も各課から名簿をいただいているわけではありませんので、傍聴者の内訳までは把握しておりません。

(委員)

これは校区審議会も含まれますか？

(事務局)

含まれます。

(委員)

誠道小学校の存続についての校区審議会がありましたから、それで傍聴者数が増えていると思います。

(地域振興課長)

どの審議会に何人来たかというのは分かりますが、どんな方が来たかまでは分かりません。

(委員)

分かりました。内訳までここに書く必要はありませんので。

(委員)

公民館運営審議会とありますが、これは公開しているのでしょうか。傍聴者が来た試しがないですが。

(事務局)

入ります。

(委員)

傍聴者は見に来たい人が来るものですから。

(地域振興課長)

傍聴者を定めている審議会もありますので、そちらについては、公示しています。この会もそうです。ただ、参加はできないので、何か大きな計画を作る会であれば、審議会の公開を経て、パブリックコメントを募集するというのが理想かと思います。

(委員)

パブリックコメントとは、どういう形で募集していますか。

(事務局)

各担当課の窓口・公民館に配架し、また、市ホームページで公開しまして、意見を募集しております。

(地域振興課長)

計画等を策定する際は、ご意見を受けつける機会を設けています。

(委員)

意見を送るのは市民の方ですか？

(地域振興課長)

中には、市外の方からのご意見もあります。「市民の声提案箱」でも、市民でない方からの提案がありますし、政策的に参考になる意見であれば、市民かどうかではなく、一つの意見として受け付けさせていただいております。

(委員)

本当は、もっとみんなが参加しないといけないですね。

(地域振興課長)

まずはきっかけとして情報を見ていただくということが重要ですので、公平な情報公開をしながら、どれだけ人の目を集められるかというのを工夫していきたいと思います。

(事務局)

それから、毎熊アドバイザーからのご意見でP16の(2)総括というのがありまして、P8にも総括があります。総括は1つしか使わないということで、P8のほうは「小括」にしてはどうか、というものでした。もう一つ、16Pの(2)総括のところ、P8の下から5行目の文章を移したらどうかという提案もありました。

(委員)

その方が良いと思います。

(委員)

これは報告書には書かなくても良いですが、参加について一つ良いですか。境港市においては、市の職員というのは大きな組織で、色んなイベントに担当課の職員さんが参加されていますが、それ以外の職員さんももっと参加するように言っていただけないでしょうか。若い職員も多くいますし、もったいないと思います。

(地域振興課長)

私個人は、若いときから色んなところに出させてもらっていたので、地域に出ることに抵抗がないのですが、今の若い世代は仕事として関わることも少なくなってきました。ただ、市長は職員に自治会の役員になることや消防団に入ることによって、地域に入っていくことを勧めています。

(委員)

若い職員が友達を誘って、いろんな場に出てくることを促して行ってほしいです。

(委員)

公民館では、主事が組合に入っているのですが、なかなか難しいです。仕事だったら嫌々でもやるんだけど、ボランティアだったら、はいとは言わないです。市の職員でも同じではないでしょうか。

(委員)

参加しろ、参加しろと言ったって、若い人は参加しません。出てきたら楽しいぞというのを伝えないとイケません。やる方も工夫しないとだめです。

(事務局)

それでは、ほかに意見はございませんでしょうか。ないようですので、修正箇所を改めて、確認したいと思います。

まず、1 Pのはじめの下に毎熊アドバイザーのプロフィールを入れる、ということ。3 Pの表を左右から上下にし、注釈で「意見は原文のまま」と入れる。5 Pも注釈を入れる。6 Pも上下にし、注釈を入れる。続いて、8 Pの(5)を総括から小括に、下5行はP16の総括に移動します。P16の「印刷物」という標記は「印刷物等」を変更し、「PR」を「周知」に、(4)として小括を追加する。以上で、よろしいでしょうか。

では、また、直しまして報告書を作成したいと思います。

(地域振興課長)

報告書が完成しましたら、皆さまにも送付させていただきます。

(事務局)

それでは、本日が最後ということで、会長からご挨拶をいただきたいと思います。そのあとに、各委員さんからも一言いただきたいと思います。

(会長)

このような報告書でまとめることができ、また次期にも生かせるなど感じております。若者の参加というのはなかなか難しく、若者も「めんどうだわ」というところから、参加してもらって、何かそれぞれにおみやげを持って帰ってもらえるようになるには、どうしたら良いかなど。やはり、「聴く」ということが大切だと思います。隔たりがあるという意見もありましたが、やはり、話してみないことには隔たりも埋まりません。

今期で終わられる方、おつかれさまでございました。残られる方は引き続き、新しい方と一緒に少しでも、良い会にできるようにがんばっていきたいと思います。ありがとうございました。

(委員)

この委員にならせていただいて、勉強することが多かったです。私は、まちづくりに興味があり、色んなまちづくりに参加していけたらと思っておりますので、今後も、境港市がより良いまちになるようこの会には参加していきたいと思っています。ありがとうございました。

(委員)

まちの活性化に少しでも参加させていただいて喜んでおります。微力ながら今後もがんばっていききたいと思っております。ありがとうございました。

(委員)

最初に、委員になってから10年が経ちました。自分の意見が採用されたり、友達の意見を報告させてもらったり、少しでも力になれたかと思っております。足が悪くなっていますが、自分でできることは自分でやるようにがんばっていききたいと思います。本当に長い間ありがとうございました。

(委員)

観光ガイドを初めてから、色んなところへ駆けずり回りましたが、もう75歳ですので、委員は定年退職としたいと思います。補助金については、今度は申請する立場に回りたいと思います。ありがとうございました。

(委員)

会合やら、病気やらで今年は休みがちになってしまいました。申し訳ありませんでした。これからもこの推進会議を続けていただいて、住みよい境港市を作っていただきたいと思っています。ありがとうございました。

(委員)

当初、私が考えていた会議とは違っていました。皆さまと話して、いかに地域のことを知らなかったかを痛感しました。市のためというよりも私自身のためになった会だったと感じております。これからも自治会活動をやっていきますので、ここで学んだことを活かして、地域のためにがんばっていきたいと思います。2年間ありがとうございました。

(委員)

2期～5期までやっておりますが、本当はもっと前からメンバーを変えたほうが良かったようにも思いますが、こんなに長くやってしまいました。補助金審査は知り合いの審査をすることもあり、あまりやりたくありませんでした。ただ、ここで出会った方々とは気心の知れた仲間になれて良かったと思います。今後は、私も申請する側に回りたいと考えております。ありがとうございました。

(委員)

条例の策定段階から委員をしておりました。いかに馴染みやすい条例を作るかということでもずいぶん苦労しました。そこでできたものをきちんと運用できるのかということで、この委員も務めさせていただきました。そのときからのメンバーは自分以外もう辞めてしまっていますが、若い方も多く入るということで、また違った展開ができるのではないかと期待して、もう1期やらせてもらうことになりました。よろしくお祈りします。

(委員)

まちづくりには興味なかったのですが、高齢化をどうしたら良いかというのは考えておりました。この会に参加して、高齢化はもう仕方のないことなのだから、若い方を誘うことを諦めず、続けていかなければと感じました。ありがとうございました。

(事務局)

ありがとうございました。それでは、最後に、事務局を代表して、地域振興課長から挨拶いたします。

(地域振興課長)

委員の皆さまが地域の中でご活躍・ご協力をいただいたことで、今日の境港市の協働のまちづくりが進んできたと思っております。

自ら後進に道を譲っていただいた委員さんも、続けて後進を引っ張って行っていただく委員さんもいらっしゃいますが、これからも私どもには叱咤激励をいただければと思います。今後とも、事務局を育ててやろうという気持ちでやっていただけたらと思います。ありがとうございました。

(事務局)

それでは、第5期委員の会議はこれで終了といたします。皆様、長い間、ありがとうございました。

<閉会>